



# 10月園だより

2021年10月  
尚徳福祉会  
沼袋西保育園  
園長

## テレビゲーム以外の 遊びを広げる工夫をする



3～6歳 能力を伸ばす 個性を光らせる  
主婦の友社 東京大学名誉教授 汐見 稔幸 氏

さわやかな秋風によって、キンモクセイの甘い香りが感じられるこの頃、子どもたちは伸び伸びと身体を動かすことを楽しんでます。

緊急事態宣言の延長に伴い、10月2日に延期になった運動会。すでにご案内の通り、今年度の運動会は幼児組のみで入れ替え制で行います。開催にあたり、どのような形で開催するか、保護者競技をどうするか等、職員間でも様々な意見がありました。例年通りに開催することは困難ではありますが、少しでも子どもたちに保育園での楽しい思い出を残して欲しいと思い、このような形での開催となりました。日々子どもたちは運動会を楽しみに、練習に励んでいます。先日の総練習の様子を見に来た乳児組さんは、お兄さんお姉さんに「がんばれー」とかわいい声援を送っていました。ダンスの曲がかかると、応援席の子どもたち総立ちで、幼児組さんを真似てとっても楽しそうに踊っていました。乳児組さんのかわいい応援を受けて、幼児組さんも張り切って披露してくれました。とても微笑ましい、幸せな瞬間でした。

無事に開催できることを祈り、子どもたちが一生懸命になっている姿を温かく見守り、励ましていただければと思います。



### ☆10月の予定☆

- 2日(土) 運動会(幼児組)
  - 4日(月) 0歳児健診・秋の健診(幼児)
  - 5日(火) 幼児身体計測
  - 6日(水) 乳児身体計測
  - 7日(木) 避難訓練
  - 8日(金) 3歳遠足
  - 15日(金) 4・5歳遠足
  - 28日(木) 0歳児健診・秋の健診(乳児)
- ※11日・18日・25日の各月曜日、英語であそぼう

### ☆11月の主な予定☆

- 2日(火) 避難訓練
  - 4日(木) 幼児身体計測  
サッカー教室(ゆり組)
  - 5日(金) 乳児身体計測
  - 10日(水) 歯科健診
  - 11日(金) 0歳児健診
  - 25日(金) 0歳児健診
  - 26日(金) 環境学習
- ※8日・15日の各月曜日、英語であそぼう

### ☆お知らせ・お願い☆

- ご家族でPCR検査を受けられる方がいる場合は園にお知らせくださいますようお願いいたします。
- 発熱や咳込み等が認められる場合は休んで様子を見てください。発熱後は熱が下がって24時間以上が経過し、呼吸器症状が無くなるまではご家庭で様子を見てください。集団で過ごす場ですのでご理解下さい。
- 緊急事態宣言の延長に伴い、運動会は10/2(土)に延期となりました。
- 秋の健診 10/4は9:30～幼児組、10/28は14:30～乳児組が行います。なるべくお休みのないようご協力よろしくお願いいたします。
- 10/22に予定しておりました環境学習は11/26(金)に変更になります。西公園に清掃車がきます。一緒に写真を撮ったり、幼児さんはリサイクルについて学びます。

### テレビゲームの問題点は ほかの遊びをしないこと

5～6歳になると、テレビゲームに夢中になる子どももあらわれてくるので、テレビゲームとの付き合い方には工夫が必要になってきます。

まず、「テレビゲームについて、何が問題なのか」を考えてみます。

テレビゲームをすると、何かが発達しないというようなことはありません。一時期、ゲームばかりすると脳が正常に働かなくなった状態のような脳活動(ゲーム脳)になるといわれたことがありますが、慣れてくれば脳の一部を使うだけでできるようになりますから、形の上では脳が正常に働かなくなった状態の人と似た脳波になることは当然でしょう。

それが問題なのではなく、ゲームにはまって、本を読むことも親と会話することも、友だちと遊ぶことも外で遊ぶこともだんだんなくなることが問題です。へたをすると、コミュニケーション能力も体を使って遊ぶ能力も体力も、十分に発達しないことになります。

生きている時間は限られているのですから、ゲームを1日3時間も4時間もやっていると、ほかのこ

とをする時間はなくなってしまいます。

つまり、テレビゲームそのものより、ゲームとの付き合い方で問題が生じるのです。

友だちや親と会話をして、外遊びをしたり、絵本を読み、そのうえ1日1時間くらいゲームをやっ

ていたら、何の問題もありません。

これは、テレビも同じことです。バランスの問題であり、たくさん遊んでいろいろな体験をさせてい

### ますますコミュニケーションが 苦手になってしまう可能性も

テレビゲームとのつきあいで、特に気にしてあげてほしいのは、コミュニケーションが苦手な子どもです。他人といると緊張感がある、といったタイプの子は、「自分がラクなのはテレビゲームをしているとき」になりがちです。そういう子どもがテレビゲームにはまっていくと「他人は自分の思うとおりにはならない」とか「相手に喜んでもらうとう

しい」というような現実感が希薄になり、ゲームの方が現実感があるというゆがんだ現実感覚が生まれる可能性がないわけではありません。

このような傾向は青年になってからのことですが、コミュニケーションが苦手な子どもがテレビゲームばかりやっていると、ますますコミュニケーションが苦手になってしまうこともあります。

### 1日1時間程度に。 ほかの遊びができる環境づくりを

幼児期にはまだそれほど長い時間、テレビゲームをしないと思いますが、子どもによってはほっておくと時間を忘れてやってしまうことがあります。親としては1日1時間、と約束をするなどして、テレビゲーム一辺倒にならない工夫や配慮をしてください。

テレビについても、子どもがひとりでテレビを見ているのと、親といっしょに見ているのとでは影響がまったく違います。テレビをみながら、「あれは何?」とか「おかしいね」と笑ったりして会話が生まれると、親子で会話をする、という別の体験になります。

テレビゲームについては、お母さんもいっしょにやってみましょう。ゲームなんて嫌いと言わずにやってみましょう。「なるほど。おもしろいわ」と思えたら、ゲームを1時間でやめる工夫も子どもといっしょに考えられるかもしれません。

お父さんにも協力してもらいます。お父さんといっしょにゲームをやるのもいいけれど、時間を決めることや、ゲームソフト選びもやってもらいます。ゲームでもテレビでもビデオでも、とにかく、お父さんといっしょになって、家庭内でルールを作りましょう。

また、子どもがテレビゲームばかりやるのは、ゲーム以外の遊びをする場所や機会がないから、ということもあります。テレビゲームは部屋が汚れないし、家の中で遊んでくれるので、ラクかもしれません。でも、外で遊ぶ機会をつくったり、家の中でも粘土やブロック、カルタなどの遊び道具を用意して、テレビゲーム以外の遊びを体